

本質の探究

近畿大学医学部薬理学教室
高橋英夫

最近参加した講演会で、聴衆の方が、『昨今のグローバル化していく社会では、画一的な基準で何事も評価され、人間的豊かさに必要不可欠な、多様性は否定されるのでは？逆らっていくことは可能か？』という漠然とした内容の質問をされました。時代の寵児ともいえる演者の方は困惑しながらも、『グローバル化という概念こそが、様々な価値観に基づく欲望を集約した集合体であるので、この流れに逆らうより、いっそ流されるという決心が必要である。』とお答えになりました。私共の行っている研究について考えてみますと、次のシーズの発見こそが生命線で多様性が必要です。これからの研究はどのように進めればよいのでしょうか。

近畿大学医学部は本部のある東大阪市から約 30km 南の大阪狭山市の丘陵地にあります。私共の薬理学教室は他施設と共同して創薬研究を行っています。15 年程前に、ある標的分子（言い換えると、創薬研究のネタとなる生体内物質）を同定し、研究していく過程で関係機関との関わりも発生しました。ご存知のように、新規薬開発研究に対



近畿大学医学部付近の風景

する評価基準は実用化とその波及効果を大変重視したもので、私共研究者にとってハードルの高いものです。その評価内容を検証すると、未知の分野を開拓するような斬新な内容を求める一方で、確固たる概念から出たと思えないようなご指摘があります。証明されていないだけで、本質についての集約された概念はすでにあるのかもしれませんが。斬

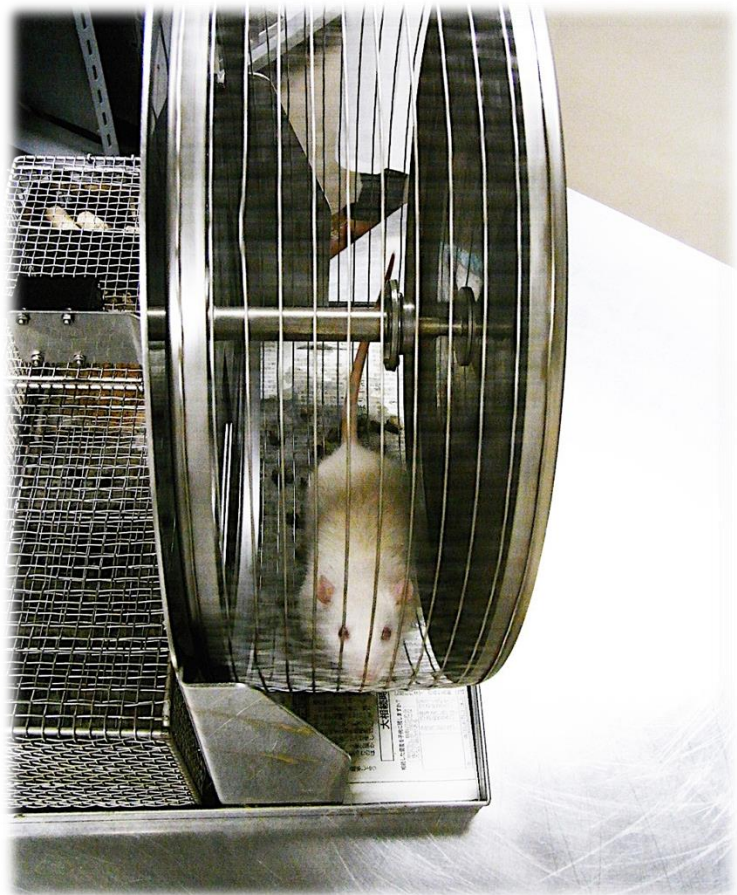
○目次

巻頭言	P1
理事会報告	P3
お知らせ	P5

新たな研究といっても、本質の探求を志向していないようなストーリーは否定されるということになります。

近畿大学の話題としてマスメディアで紹介されている完全養殖本マグロ『近大マグロ』は、お客様には興味半分ではなく、十分美味で比較的廉価な食材として食べていただいています。その開発目的は、安定供給によって多くの方に満足していただくという明快なものです。もっとも、開発過程は順調なものではなく、本マグロの生態を解明する為の試行錯誤の末に、飼育の秘訣が発見されたことが知られています。一般人にはその内容は理解出来なくても、『近大マグロ』の存在自体は生態の本質に到達しつつあることを表現しています。いままでの養殖魚開発のノウハウを生かして、さらに、『うなぎ味ナマズ』や養殖鯛『キンダイ』などが次々と開発されています。本質の探究は多様性を生むようです。

SHRSPは40年以上前に開発され、高血圧症や脳卒中をはじめ様々な分野の治療法開発の為に用いられてきました。私共のSHRSPを用いた研究の結果をみても、負荷による変化が明快で、多様な研究シーズを示唆します。SHRSP開発のコンセプトは病態生理の本質から出発したような、おそらく周到なものであったと想像出来ます。だからこそ、健康医学や創薬研究をふくむ臨床医学へ多大なる貢献をしてきたのでしょう。これまでの多くの知見は本質の一部を示したに過ぎないのかもしれませんが。私共はもっと病態生理の本質を探究していこうと考えています。そのためにSHRSPの生態を解明していきたいと存じます。



運動中の SHRSP

